

マクロ記録で Excel VBA入門



書式設定を相対参照で記録する

第2回

セルに書式を設定する操作が、どのようなマクロとして記録されるかを解説する。マクロを「相対参照で記録」する使い方も理解しておこう。

文：土屋 和人

今回は、セルに書式を設定する操作を記録してマクロ化する。それらがどのようなVBAのコードとして表されるかを詳しく見ていこう。また、常に同じセルを操作の対象とするのではなく、対象セルを実行時に選択できるマクロを作成するための、「相対参照で記録」の利用法についても説明する。

書式設定の操作をマクロ化

「記録用1」シートを開き、入力済みのB2～C3セルに書式を設定する操作を記録していく(図1)。記録開始時にどのセルを選択しているかは重要ではないが、同じ操作を記録したときに、後で紹介する「相対参照で記録」とどのように違うかを示すために、ここではB2セルを選択している状態から記録を開始する。マクロ記録の手順は前回と同様で、「表示」タブの「マクロ」の「▼」から「マクロの記録」を実行。表示される画面で「書式設定1」というマクロ名を指定して、「OK」をクリックする(図2)。

見出しの文字列が入力されたB2～C2セルを選択し、まず「ホーム」タブの「太字」をクリック(図3)。続けて、「ホーム」タブの「中央揃え」を設定する。次に、

●書式設定をマクロ記録する

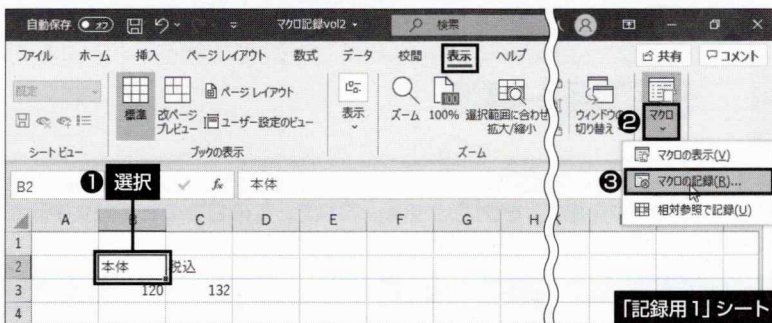


図1 セル範囲に「太字」「中央揃え」などの書式を設定する手順を、記録機能でマクロ化しよう。ここでは「記録用1」シートのB2セルを選択した状態で、「表示」タブの「マクロ」の「▼」から「マクロの記録」を選ぶ



図2 表示される「マクロの記録」画面の「マクロ名」欄に「書式設定1」と入力。「マクロの保存先」が「作業中のブック」となっていることを確認し、「OK」をクリックする

数値が入力されたB3セルと、その数値を1.1倍する数式が入力されたC3セルを選択し、「ホーム」タブの「数値の書式」の「▼」から「通貨」を選ぶ(図4)。マクロ化したい操作はこれだけなので、「表示」タブの「マクロ」の「▼」から「記録終了」